

「解答例等」・「出題の意図」

研究科・選抜区分・専攻等	2026年度 法学研究科 （選抜区分：一般選抜【冬期日程】） 専修コース専攻 （領域・分野・研究科目・選択科目：政治行動論）
出題の意図 （評価のポイント）	本問題は、政治現象を分析する政治行動論の中心的なテーマである選挙における有権者の投票行動について、基礎的な知識とその理解を問うものである。 投票行動研究では、有権者が政治家や政党などの投票先を決める際に、様々な要因が検討され、モデルや重要な要因の存在が分析によって明らかにされてきた。例えば、政治学の教科書で代表的な投票行動のモデルとして、紹介される「社会学モデル（コロンビアモデル）」、「社会心理学モデル（ミシガンモデル）」、「経済学モデル」がある。これらのモデルは、それぞれ社会学、社会心理学、経済学を背景とした投票行動研究である。 その上で、本問題では、こうした投票行動研究の基礎的なモデルである3つのモデルを念頭に置きつつ、投票行動研究の知見を2つ以上挙げ、それぞれの概要を問うものであった。 さらに、この投票行動研究の礎を作った3つのモデルが、モデルごとに存在する限界、つまり現実の選挙結果や世論調査などで分かった複雑な有権者の投票行動に対し、1つのモデルでは説明つかない部分に新たな知見に基づいて、説明を試みてきた学説的な流れがある。こうした流れを踏まえ、複雑な政治現象を分析する政治行動を行うにあたって、複数の視点と、それぞれの関係に着目する力を問うために、本問では、考え方やモデルを「2つ以上」挙げさせ、それらが、どのように関係しているのかを説明できるかも評価のポイントとした。